

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分	担当課	事業課産業グループ
基本目標	1 ひとを育む	
施策の枠組み	(1) 結婚・出産・子育てへの切れ目のない支援	
具体的施策	① 非婚化・晩婚化対策	
事業名	婚活イベント企画事業	
事業概要	最終予算額 100 千円	決算額 100 千円
	他市町村との連携や、スポーツ等を絡めた独自の婚活イベントの企画等により、若い世代を中心とした結婚希望者の出会いの場の創出に努めます。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	婚活イベント実施回数（参加者数）					
		K P I	3 回 2 0 人（H31 年度）					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	3 回 10 人	4 回 8 人	2 回 4 人		
		達成率	—	5 0 %	4 0 %	2 0 %		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	県南 9 市町村で連携し、ふれあいの場創出事業として婚活イベント「出逢い&ふれあいの会」を 2 回実施。泉崎村からの参加者は計 4 名で全員男性だった。女性の参加者が少ないため、村内企業訪問を行うことでイベントの告知を行っている。
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		ホームページへの掲載や、地元商店へのポスター掲示を行ったが参加者数が増えなかった。今後は広報での全戸配布も検討する。また、村内企業訪問も継続して行う。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分		担当課	住民福祉課福祉グループ
基本目標	1 ひとを育む		
施策の枠組み	(1) 結婚・出産・子育てへの切れ目のない支援		
具体的施策	②子育て環境の整備		
事業名	幼児定期検診事業		
事業概要	最終予算額	7 7 4 千円	決算額 7 5 4 千円
	子どもの健診を実施することにより、身体発育、精神発達等の異常の有無を早期に発見し、適切な指導を行うとともに、母親に対して育児不安を除き、安心して育児ができるよう支援する。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	幼児定期健診受診率					
		K P I	9 8 % (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	94.7%	99.2%	100%		
		達成率	—	97%	101%	102%		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値		99.2%	96.0%			
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	1 歳 6 か月児健診 44 名 (100%)、3 歳児健診 51 名 (100%) 受診。 平成 29 年度の対象者は年度内に全て受診した。
		A	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		順調に推移しているため、継続して事業を実施していく。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		A	

A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。

B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。

C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。

D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分	担当課	教育課学校教育グループ
基本目標	1 ひとを育む	
施策の枠組み	(1) 結婚・出産・子育てへの切れ目のない支援	
具体的施策	③学習・教育の場の充実	
事業名	基礎学力向上推進事業（プチスクール土曜学習、放課後学習、数学英語検定助成）	
事業概要	最終予算額 12,970 千円 (内訳：12,778 千円検定 192 千円)	決算額 11,774 千円 (内訳：11,676 千円検定 98 千円)
	教育基本法や学校教育法が目指す普遍的な教育の根幹を踏まえ、グローバル化の進展や人工知能（A I）の飛躍的な進化など、社会の加速度的な変化を受け止め、将来の予測が難しい社会の中でも、伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、志高く未来を創り出していくために必要な資質・能力を育む。 泉崎村学力向上推進事業～アクションプラン 5 年計画（H26～H30）別紙 <小学生> プチスクール土曜学習：小学 5 年・6 年、発展コース（算数・英語）、個別コース（国数理社）。 （個別指導コース）個々の学習状態に応じた手厚い指導。基礎をしっかりと学ぶ。小学校個別指導コースは、寺子屋をイメージした先生と生徒が近い距離で話し合い、分からないことをひとつひとつ丁寧に教えてもらえる雰囲気となる環境設定とした。個別は一斉教授の授業形態とは違うので質問しやすい（分からないことを聞きやすい）という嬉しい声が聞かれている。 （発展コース）英語は英検 4 級以上（英単語・文構造）算数については小学校教育課程では学習の範疇にない、いわゆる算数的思考の問題にチャレンジ。例えば方程式（$x \cdot y$）を用いれば簡単に解けてしまう問題を面積に置き換えたり、比を用いるなど、いろいろな解法で答えにたどり着く。数学の単に公式を暗記するのではなく、様々な解法により、『学習の転移』を狙う。※新学習指導要領の学力部分の要素です。例えば、全国学力・学習状況調査※1でも A 問題（主に知識）なら平行四辺形の面積が正答できるのに、B 問題（主に活用）で公園の面積として問われると正答率が途端に落ち込みます。学習の転移は簡単には生じないことを意味しております。授業で知識を教えても、すぐに自在に使える訳ではないことが言えます。したがって、発展コースは幅広いアイディアで問題を解決する数学的センスを磨く学習です。 <中学生> プチスクール土曜学習 ○プチスクール土曜学習会 小学生 5 年・6 年／発展コース（英語・算数）、個別コース（国数理社） 中学校放課後学習会 1 年～3 年（数学・英語） ○中学校放課後学習 受験コース 3 年／習熟度別（数学・英語） 1 年・2 年／習熟度別（数学・英語）※理・社はすべて本務校教職員 ※講師は、ベスト学院、数学塾、村加配講師による 中学校の放課後学習【数学英語】他の教科は本務者にて実施。なお、平成 29 年度より 3 年生に導入していた習熟度別学習を 1 年 2 年にも設け、きめ細やかな学習内容とした	

＜小中共通＞

泉崎村英語検定・数学検定検定料助成事業

英検について

現：高校１年生より大学入試は民間テスト（英検等）が導入され、現中学１年生は共通テスト（英語）が民間テストに（英検等）完全代替されます。

また、平成３０年６月１５日閣議決定された『社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する』は、中学卒業段階で CEFR⁸²-A1 以上、高校卒業段階で CEFR-A2 以上の割合を 50 パーセント、高校留学（６万人）、大学留学（１２万人）、大学留学生受け入れ 30 万人万人その後国内就職 50 パーセントを目指すとして決定されました。

次に、平成３０年２月２８日文科省より発行の小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語活動・外国語編、第２章外国語科の目標及び内容 抜粋 【小学校の外国語活動及び外国語科で指導する語数の下限を、「700 語」とは指導で取り扱う一定の目安となる語数を示したものであり、700 語程度を上限とするという趣旨ではない。また、小学校中学年の外国語活動から中学校の外国語科までの間に指導した内容を、中学校の外国語科の言語活動において繰り返し活用することによって、生徒が自分の考えなどを表現する際に、話したり書いたりして表現できるような段階まで確実に定着させることが重要である。こうして、各学校段階を通じて習得させていく過程が重要です。なお、語数については、綴りが同じ語は、品詞に関わりなく１語と数え、動詞の活用形、名詞の単数・複数形、形容詞や副詞の比較変化などのうち規則的に変化するものは原則として辞書の見出し語を代表させて１語とみなします】学習指導要領はミニマム基準（最低基準）

これらのことから、英語検定の奨励により、小中学生の多様な力の育成の指標及び学校教育の充実に寄与するものです。

数学検定について

全国学力学習状況調査（以下、全国テスト）の問題が A（基礎）B（思考発展）が B 問題に統合されます。特に『学習の転移』が問われる内容となります。また、全国テストは福島県立高校入試問題に大きく影響していることから、現在高校入試の問題は基礎問題が 175 点（250 点満点）の配分バランスが変わる可能性があります。これらの対策として適当なのが、数学検定の２次問題となっています。また、同検定は記述式の問題であるため、共通テストや入試問題への対応とも一致しております。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	目標事項		学力向上（学習・教育の充実）					
		K P I		高校入試（志望校）、全国学力学習状況調査、NRT 調査、検定試験合格					
		現状値		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	一	ブチスクール 47 回、放課後学習 18 回、志望校概ね	ブチスクール 47 回、放課後学習 18 回、志望校概ね	○土曜学習 47 回 ○放課後学習 3 年 20 回 / 1・2 年 10 回 志望校期間内最高、検定試験役 9 割合格	ブチスクール小学生 6 月、中学生 7 月、放課後学習 3 年生英語数学とも 2 回目、検定試験（数学・英語）1 回実施		
		達成率	一	9 2 %	9 2 %	9 8 %	2 0 %		

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	学力向上は対象児童生徒が継続しているため、直近の成果は前年度の施策が大きく影響しております。全国学力学習状況調査及び県学力調査とも県平均・全国平均を上回りました。また、小学校について対象学年は優れた成果を上げ県内トップレベルの指標を示している。また、中学校の受験学年については実力テスト 200 点を超過する生徒が 2 ケタ台 (H27・H28) を示し、平成 29 年度も顕著な伸びを見せました。最終的な受験コース (中学 3 年生) の高校入試成果は計画期間内で最も優れた実績を残しました。
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		プチスクール土曜学習は小学生コースを 2 コース設け (発展と基礎)、それぞれの目的に応じたきめ細かな学習を実施したため、個に応じた対応ができ年間を通して高い参加率になりました。中学校放課後学習では 3 年生のみならず、1 年 2 年の段階から高校受験を意識させるため習熟度に分け、学習内容及び出題問題など入試傾向に対応した授業とし、早い段階で志望校を意識させ、志望校に必要な学習内容・学習量を生徒個人にきちんと自覚させる働きかけも進められました。 課題は、プチスクール土曜学習の中学 1 年 2 年生で部活動の兼ね合いもありますが、参加申込も少なく受験までの期間が長いことから危機感を持った生徒が少なくない。しかし、現中学 2 年より新制度の高校入試となることから、点数のみならず学力の内容【新しい時代に必要となる資質・能力の育成】 1：何を知っているか、何ができるか (個別の知識・技能) 2：知っていること・できることをどう使うか (思考力・判断力・表現力等) 3：どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか (人間性や学びに向かう力) 以上が問われております。今後は、児童・生徒のみならず保護者及び地域の皆さまにも情報発信を行い確かな学力と社会に開かれた教育課程の実現を進めて行く必要があります。	
	委員会 意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		A	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分		担当課	教育課学校教育グループ
基本目標	1 ひとを育む		
施策の枠組み	(1) 結婚・出産・子育てへの切れ目のない支援		
具体的施策	③学習・教育の場の充実		
事業名	学校などを通じた健康教育・食育の充実事業		
事業概要	最終予算額 0 千円	決算額 0 千円	
	健康教育・食育教育の強化により子どもたちの生きる力を育てる。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	健康教育・食育の小・中カリキュラムへの導入					
		KPI	導入済 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	未導入	未導入	導入		
		達成率	—	0 %	0 %	100 %		
		目標事項						
		KPI						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	栄養士による食育教育を幼稚園・小学校で各各クラス 2 時間を導入、 また、中学校では、各学年 1 時間を実施すること。
		B	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		給食センター、栄養教員が小学校・中学校を訪問し、各クラス年 2 回、学級活動などの時間を利用し、食育活動を行う。現在、各学校と日程調整中。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		B	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分		担当課	住民福祉課福祉グループ
基本目標	1 ひとを育む		
施策の枠組み	(1) 結婚・出産・子育てへの切れ目のない支援		
具体的施策	④経済的支援の推進		
事業名	泉崎村特定不妊治療費助成事業		
事業概要	最終予算額	750 千円	決算額 123 千円
	子どもを希望しながらも恵まれない夫婦に対し、特定不妊治療に要する治療費の一部を助成することにより、経済的負担の軽減並びに少子化対策の推進を図る。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	特定不妊治療費助成受給者の出生数					
		K P I	2 人 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	1 人	1 人	1 人			
		達成率	50 %	50 %	50 %			
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	2 人	0 人				
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	29 年度から男性不妊も助成対象とした。住民への周知を図り継続して事業を実施していく。
		B	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		継続して事業を実施していく。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		B	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分		担当課	総務課企画財政グループ
基本目標	1 ひとを育む		
施策の枠組み	(1) 結婚・出産・子育てへの切れ目のない支援		
具体的施策	⑤ワーク・ライフ・バランスの推進		
事業名	ワーク・ライフ・バランス啓発推進事業		
事業概要	最終予算額 0 千円	決算額	0 千円
	ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、子育てを行う若い世代等の長時間労働を削減するため、フレックスタイム制度や朝方勤務制度の実施を推進します。 また、フレックス育児休暇等の制度を設けた企業・事業者に対する、優良企業の認定を行うことにより、出産・育児と仕事の両立の実現を支援します。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	ワーク・ライフ・バランス優良企業認定数					
		K P I	1 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	0	0	0			
		達成率	0 %	0 %	0 %			
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	ワーク・ライフ・バランス優良企業を認定するための、情報収集を行い、制度設計に向けた作業を早期に実施したい。
		C	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		ワーク・ライフ・バランス優良企業を認定するための、先進事例の情報収集を行い、制度設計に向けた作業を早期に実施したい。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の K P I 達成に有効であった。
		C	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分	担当課		事業課産業グループ
基本目標	2 しごとをつくる		
施策の枠組み	(1) 企業誘致等の促進		
具体的施策	①企業誘致による雇用創出		
事業名	企業誘致事業		
事業概要	最終予算額 1,485 千円	決算額 1,154 千円	
	自然環境との調和に配慮しながら、官民一体となった企業誘致体制を確立し、高い成長が見込まれる医療・福祉関連産業やソフト系 I T 関連産業等に加え、商業施設の立地可能性の検討等、多様な企業の誘致による雇用創出を推進します。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	誘致企業数					
		K P I	3 社 (H31 年度までの 5 年間累計)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	1 社	2 社	0 社			
		達成率	33%	100%	100%			
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	28 年度に、中核工業団地において買い増しや新規購入を含め 3 件の土地売買があり、その内 2 社の企業で早期の事業開始予定しており雇用創出面でも期待できることから、設備投資や雇用の面で支援できる制度等を周知し、活用できるよう支援したい。
	(A) 改善	A	
		30 年度における取り組みなど	工業団地においては、売却可能な土地を有していないことから、既存企業へ村出身者の雇用について今後も継続して、働きかけていきたい。
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		A	

A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。

B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。

C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。

D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分		担当課	事業課産業グループ
基本目標	2 しごとをつくる		
施策の枠組み	(1) 企業誘致等の促進		
具体的施策	②地域企業の競争力強化による雇用創出		
事業名	商店の活性化事業		
事業概要	最終予算額 3,500 千円	決算額	3,500 千円
	県や村商工会等との連携を強化し、商業振興制度の拡充により、村内の商店の活性化を図ることにより、商業の総合的な発展を目指します。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	村内商店数					
		K P I	3 7 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	3 4	3 4	3 4		
		達成率	—	9 2 %	9 2 %	9 2 %		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	商工振興事業補助金として、村商工会に補助金を交付し、商工会及び 商工会加盟商店等の活性化に寄与した。
		B	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		同補助事業を継続し、村主催事業等への積極的参加を呼びかけるとともに、自らの地域活性化事業の展開を促す。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		B	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分	担当課	事業課産業グループ
基本目標	2 しごとをつくる	
施策の枠組み	(1) 企業誘致等の促進	
具体的施策	②地域企業の競争力強化による雇用創出	
事業名	高度化資金等の助成制度の促進事業	
事業概要	最終予算額 0 千円	決算額 0 千円
	県や村商工会等との連携を強化し、高度化資金等の助成制度の促進や商業振興制度の拡充により、村内の商店の活性化を図ることにより、商業の総合的な発展を目指します。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	高度化資金の助成件数					
		K P I	1 件 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	0 件	0 件	0 件			
		達成率	0 %	0 %	0 %			
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	目標にある高度化資金等の助成制度の利用等の実績はないが、今後も県や村商工会との連携を密に行い、村内商店の活性化を図る。
		D	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		高度化資金制度の内容を知らない事業者もいることから、広報紙等で周知し事業者へ情報提供していきたい。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効とは言えない。
		D	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分	担当課	事業課産業グループ
基本目標	2 しごとをつくる	
施策の枠組み	(1) 企業誘致等の促進	
具体的施策	③若年層等の新規就業・創業への支援	
事業名	新規創業者・新事業展開補助金事業	
事業概要	最終予算額 0 千円	決算額 0 千円
	企業誘致等に伴う求人情報の提供や必要な職業訓練について、関係機関と連携した支援を強化します。また、村内で創業・起業する事業者に対する補助金の交付や、活用可能な空き家・空き店舗等の情報提供等の支援を行い、新たな事業の立ち上げを促進します。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	創業・起業に活用された空き家・空き店舗数					
		K P I	5 件 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	3 件	0 件	0 件		
		達成率	—	6 0 %	0 %	0 %		
		目標事項	創業・起業数					
		K P I	1 0 件 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	8 件	0 件	0 件		
		達成率	—	8 0 %	0 %	0 %		

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	本年度、中核工業団地の土地が売買された事により、来年度から新規事業者が工場の操業を開始する予定としている事から、村内住民の雇用に働きかけたいと考える。
		C	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
			村内で空き家等を活用して、創業・起業したいという問い合わせ等はないが、他市町村の取り組みも参考にしながら今後検討したい。
	委員会 意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		C	

A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。

B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。

C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。

D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分		担当課	事業課産業グループ
基本目標	2 しごとをつくる		
施策の枠組み	(2) 産品の販路拡大		
具体的施策	①村産品の販路開拓へ向けた地産地消		
事業名	地産地消の推進事業		
事業概要	最終予算額 3,200 千円		決算額 3,011 千円
	風評被害払拭及び地産地消推進のため、県外において村の農産物や特産品の販売をするとともに、観光や住宅団地の PR をすることを目的に実施。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	村産品の取り扱い施設・店舗数					
		K P I	1 2 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	9	9	9		
		達成率	—	7 5 %	7 5 %	7 5 %		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	目標事項に掲げている特産品の取扱施設・店舗数では、実績がないが、県外のイベントに積極的に参加し、地元農産物や観光及び住宅地の PR 活動を実施した
		B	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
			農産物等を販売・観光及び住宅地の PR 活動を実施する時に、地元農産物や特産品を販売 PR することとしている。年間約 1 0 回程度、参加及び開催している。今後も継続していく。
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		B	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分	担当課		事業課産業グループ
基本目標	2 しごとをつくる		
施策の枠組み	(2) 産品の販路拡大		
具体的施策	②農林畜産物の販路開拓		
事業名	観光案内所を兼ねた直売所建設の検討事業		
事業概要	最終予算額 110,000 千円	決算額 106,912 千円	
	泉崎村総合直売所（仮称）検討委員会を実施し、近い将来観光案内所を兼ね備えた総合直売所建設することにより、村の農業生産者の販路拡大に繋げる。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	直売所の開設数					
		K P I	3 箇所 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	2 箇所	0 箇所	0 箇所		
		達成率	—	6 7 %	0 %	0 %		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	平成 2 8 年度中に予算化した建物の実施設計及び建設工事については、平成 2 9 年度に予算を繰越して実施している。
		B	継続して実行委員会では協議し、運営方法や運営管理者の選定をする予定。
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
			年度はじめに、オープンする予定となっており、地元農家の生産者の方々と一層連携を図り、地域の特産物や加工品も含めた商品開発を行うなど、取り組みを進めていきたい。
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		B	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分			担当課	事業課産業グループ
基本目標	2 しごとをつくる			
施策の枠組み	(2) 産品の販路拡大			
具体的施策	②農林畜産物の販路開拓			
事業名	県のアンテナショップへの出品事業			
事業概要	最終予算額 0 千円		決算額 0 千円	
	県のアンテナショップ（MIDETTE）日本橋ふくしま館等へ泉崎村の農産物等を出品することにより、販路開拓及び泉崎村の PR をすることを目標とする。			

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	県アンテナショップの村産品取扱品目数					
		K P I	1 品 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	0 品	0 品	0 品		
		達成率	—	0 %	0 %	0 %		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	今年度については、日本橋ふくしま館で平成 29 年 1 月 21 日・22 日に地元農産物やはと麦製品等を販売している。
		C	県のアンテナショップでの村産品の取扱いはなかった。
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		今後は、アンテナショップに出品方法を確認して販路拡大に繋げる。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		C	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分		担当課	事業課産業グループ
基本目標	2 しごとをつくる		
施策の枠組み	(3) 未来につながる農業づくり		
具体的施策	①農業生産基盤の強化		
事業名	経営体育成対策事業		
事業概要	最終予算額 127 千円		決算額 127 千円
	地域の将来を担う中心経営体の育成・確保を図ることが課題となっている。中心経営体が、経営規模の拡大や農産物の加工・流通・販売等の経営の多角化等に取り組む際に必要となる農業用機械等の導入について支援する。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	育成対象とする農業経営体数					
		K P I	6 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	5	5	5			
		達成率	83%	83%	83%			
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	今年度については、実績がなかったが、今後、福島県、J A 等関係機関と連携して事業の継続を図る。
		C	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		事業概要について、農政説明会等で情報提供を行って行きたい。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		C	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分		担当課	事業課産業グループ
基本目標	2 しごとをつくる		
施策の枠組み	(3) 未来につながる農業づくり		
具体的施策	①農業生産基盤の強化		
事業名	集落営農対策事業		
事業概要	最終予算額 0 千円		決算額 0 千円
	近年、農家の高齢化及び地域における担い手・後継者不足が課題となっている。地域農地の継続的な耕作・維持管理のため、集落ぐるみで集落全体の農業生産の効率化と所得向上を図り合理的な農業の展開を支援する。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	集落営農組織数					
		K P I	3 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	2	2	2		
		達成率	—	6 6 %	6 6 %	6 6 %		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	現在活動している二つ集落営農組織は、村内全域を活動範囲としており経営所得安定対策事業への加入を主たる目的として設立されている。今後設立する組織については、地域の情勢に合わせた集落単位の営農組織の設立を目指す。
		C	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		担い手・後継者不足が予測される地域の把握に努める。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		C	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分		担当課	事業課産業グループ
基本目標	2 しごとをつくる		
施策の枠組み	(3) 未来につながる農業づくり		
具体的施策	②農業の6次産業化の推進		
事業名	6次産業化の推進事業		
事業概要	最終予算額 2,158 千円		決算額 1,010 千円
	魅力ある農業を推進するため、農薬等を使用しない農法（有機栽培）を実施する。		
	事業内容としては、試験研究を目的とした農地（圃場）を借用し、一般参加者により有機栽培を実施する。		
	また、将来的には収穫した農産物を利活用した6次化商品の開発を行い、村の魅力を発信できる特産品にする。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	6次産業化による製品開発数					
		K P I	1 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	0	0	0		
		達成率	—	0 %	0 %	0 %		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	今年度については、有機栽培を目指している圃場に（玉葱 3 万本、にんにく 150 kg、すなっぷえんどう、菜の花 50a）を 11 月上旬に作付・種蒔きしたところである。一般参加者が少ないため、多くの方に参加してもらえよう周知していきたい。
		C	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		一般参加者を含め、有機栽培の知識が乏しいため各種研修に積極的に参加し、知識を深める他、県の関係機関・関係農業者と連携しながら作付農作物が良い状態で収穫出来るよう努力したい。また、新しい農作物の作付にも取り組む。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		C	

A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。

B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。

C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。

D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分	担当課		事業課産業グループ
基本目標	2 しごとをつくる		
施策の枠組み	(3) 未来につながる農業づくり		
具体的施策	③農業の担い手の育成・確保		
事業名	新規就農者等への支援事業（青年就農給付金事業）		
事業概要	最終予算額 5,250 千円		決算額 5,250 千円
	農業従事者の高齢化及び地域の担い手農家不足が進展する中、持続可能な力強い農業を実現するには、青年の新規就農者を増加させる必要があり、新規就農するにあたっては、技術の習得や所得の確保等が課題となっていることから、経営が不安定な就農直後（5 年以内）の所得を確保する給付金を給付し、青年の新規就農者を増加させることを目的とする。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	新規就農者数					
		K P I	6 人 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	4 人	0 人	0 人		
		達成率	—	6 7 %	0 %	0 %		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	本年度においては、新規就農者がいなかった。今後は事業の情報発信を行っていききたい。
		C	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		福島県、J A 等と情報を共有し就農希望者の掘り起こしや新規就農に関する相談体制を強化すると共に情報の発信を実施する。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		C	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分	担当課	事業課産業グループ
基本目標	3 ひとの流れをつくる	
施策の枠組み	(1) 移住・定住の促進	
具体的施策	①首都圏を中心とした移住・定住の情報発信	
事業名	泉崎村ライフスタイル提案事業	
事業概要	最終予算額 1,303 千円	決算額 1,281 千円
	泉崎村への移住を検討している人のため、過去に移住した人を対象に、村での生活を調査し、ライフスタイルの例として冊子作成・HP への公開を行います。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	泉崎村ライフスタイル調査の実施					
		K P I	実施済 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	未実施	実施済	実施済		
		達成率	—	0 %	100 %	100 %		
		目標事項	泉崎村ライフスタイル冊子の作成					
		K P I	作成済 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	未作成	未作成	未作成		
		達成率	—	0 %	0 %	0 %		

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	① 今年度は新たな動画作成は行わず、春に東京都から泉崎村までのバスツアーを開催し 15 名が参加した。実際に天王台ニュータウンに移住された方々との交流によりライフスタイルを提案した。また、その様子をホームページ及び SNS 上に公開し、泉崎村の魅力を発信した。(わっはっは！！泉崎村交流拡大事業委託費 800,000 円他)
		B	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		ホームページに公開したが実際の移住に結びついていないため、PR 方法を再考する必要がある。交流事業などの SNS での発信は続けることで効果が表れると期待している。	
	委員会 意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		B	

A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。

B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。

C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。

D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分	担当課	教育課学校教育グループ
基本目標	3 ひとの流れをつくる	
施策の枠組み	(1) 移住・定住の促進	
具体的施策	②地域のニーズに対応した移住者受入体制の構築	
事業名	Uターン者等の奨学金の減免事業	
事業概要	最終予算額 0 千円	決算額 0 千円
	泉崎村出身者が大学卒業後に村内に居住・就職すること等による奨学金の一部減免	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	奨学金の減免者数					
		K P I	3 人 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	0 人	0 人	0 人		
		達成率	—	0 %	0 %	0 %		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	要綱も出来ていない。検討を要するがまだ取り組んでいない。
		D	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		特に取り組んでいない。	
	委員会 意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効とは言えない。
		D	

A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。

B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。

C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。

D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分		担当課	総務課企画財政グループ
基本目標	3 ひとの流れをつくる		
施策の枠組み	(1) 移住・定住の促進		
具体的施策	②地域のニーズに対応した移住者受入体制の構築		
事業名	地域おこし協力隊の活用事業		
事業概要	最終予算額 0 千円	決算額 0 千円	
	地域の理解と協力を得て地域おこし協力隊の受け入れを行い、移住・定住を促進します。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	地域おこし協力隊の受け入れ数					
		K P I	1 人 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	0 人	0 人	0 人		
		達成率	—	0 %	0 %	0 %		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	地域おこし協力隊の受け入れに向けて情報収集をしている。
		C	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		地域おこし協力隊の受け入れを行っている近隣市町村の担当者等から情報収集を行いたい。	
	委員会 意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の K P I 達成に有効であった。
		C	

A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。

B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。

C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。

D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分	担当課	事業課産業グループ
基本目標	3 ひとの流れをつくる	
施策の枠組み	(1) 移住・定住の促進	
具体的施策	③住まいの確保による移住・定住促進	
事業名	若者定住賃貸住宅建設事業	
事業概要	最終予算額 14,862 千円	決算額 14,862 千円
	若年層の方々の定住促進を図ることにより、人口の増加及び地域社会の活性化を目指す。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	若者定住賃貸住宅建設数					
		K P I	3 戸 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	1 戸	1 戸	1 戸			
		達成率	3 3 %	6 6 %	100 %			
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価		
		担当課 評 価	28 年度までに、2 棟が完成し既に入居されている。 また、29 年度内に 3 棟目が完成入居となった。入居者の方々には積極的に村のイベントに参加して頂くなど村の活性化に大いに貢献していただいている。	
		A		
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど		
		4 号棟を、別の係において建設予定であり、年度内には入居者を募集し、抽選・引渡しを行う予定としている。		
	委員会意見	評価等に対する意見		
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。	
		A		

A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。

B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。

C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。

D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分		担当課	事業課建設水道グループ
基本目標	3 ひとの流れをつくる		
施策の枠組み	(1) 移住・定住の促進		
具体的施策	③住まいの確保による移住・定住促進		
事業名	公営住宅・定住促進住宅長寿命化対策事業（公営住宅等ストック総合改善事業）		
事業概要	最終予算額	0 千円	決算額 0 千円
	H26 年度～H35 年度までの 10 年間を長寿命化計画期間とし、前期・後期 5 年ずつとし計画内容は 5 年ごとに見直すこととなっている。村営住宅・定住促進住宅においては、耐用年数を超過・または耐用年数の過半を超過した住戸はない。しかし、躯体の耐久性、経年劣化による設備類の改修が重要な課題であるため、定期点検等を踏まえた効果的な計画のもと、ストックを有効的に維持管理するため、計画的な修繕・改善等の検討も行う。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	長寿命化実施済み公営住宅数					
		K P I	1 棟 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	0 棟	0 棟	0 棟		
		達成率	—	0 %	0 %	0 %		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	平成 29 年度においては、修繕・改善箇所はなかったが、今後も定期的な建築物・設備等の定期検査を行い、予防保全的な維持管理に努め、耐久性の向上などを目的とし、公営住宅・定住促進住宅の長寿命化を図る。
		B	
	(A) 改善	30 年度における取り組みなど	
		計画に基づき、定期点検を実施し、建物の老朽化・劣化による事故等を未然に防ぐとともに、修繕工事の効率的な実施につなげる。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		B	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C Aサイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分		担当課	総務課企画財政グループ
基本目標	3 ひとの流れをつくる		
施策の枠組み	(1) 移住・定住の促進		
具体的施策	④交通利便性の向上		
事業名	高速バス乗降場の設置事業		
事業概要	最終予算額 13,381 千円		決算額 13,381 千円
	矢吹インターチェンジ付近に高速バスの停留所「矢吹泉崎バスストップ」を整備することにより、近隣市町村の利便性を首都圏に強く印象付け、来訪者の増加や二地域居住の推進を図る。		
	平成 30 年度供用開始予定であったが、平成 31 年度供用開始予定となった。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	高速バス乗降場の設置					
		K P I	設置済 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	未設置	未設置	未設置		
		達成率	—	0 %	0 %	0 %		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	矢吹町が中心となって、測量、設計、用地交渉等の業務を行っている。
		B	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		29 年度から 30 年度にかけて工事・補償・ネクスコの協議を行っていく。	
	委員会 意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の K P I 達成に有効であった。
		B	

A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。

B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。

C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。

D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分		担当課	総務課企画財政グループ
基本目標	3 ひとの流れをつくる		
施策の枠組み	(1) 移住・定住の促進		
具体的施策	④交通利便性の向上		
事業名	S u i c a の設置事業		
事業概要	最終予算額 0 円		決算額 0 円
	J R 泉崎駅に簡易 Suica 改札機を設置することにより、泉崎駅を利用する方の利便性を向上させる。		
	泉崎駅の利便性が向上することにより、通勤・通学で利用する方が増え、人口減少に歯止めをかけたい。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	S u i c a の設置					
		K P I	設置済 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	未設置	未設置	未設置		
		達成率	—	0 %	0 %	0 %		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	福島県鉄道活性化対策協議会を通し J R 東日本本社等への要望した結果、「導入には非常にお金がかかることから、利用状況や導入によって見込まれる効果を総合的に勘案していきたい。」と回答があった。
		B	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		導入に向けて継続して要望していきたい。	
	委員会 意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の K P I 達成に有効であった。
		B	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分	担当課		中央公民館
基本目標	3 ひとの流れをつくる		
施策の枠組み	(1) 移住・定住の促進		
具体的施策	⑤郷土愛の醸成		
事業名	泉崎の魅力発見事業		
事業概要	最終予算額 500千円	決算額 500千円	
	村内外に呼びかけ、泉崎の魅力を発見するためのフィールドワークを実施し、発見した魅力の活用について、ワークショップ等で検討します。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	魅力発見ワークショップの実施					
		K P I	実施済 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	未実施	実施済	実施済		
		達成率	—	0 %	100 %	100 %		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	泉崎村のシンボルである「鳥峠」の景観や環境を後世に残す「鳥峠の自然を守る会」の会員を中心に、地域住民の交流の拠点となるよう環境の整備を進めた。
		B	また、自然を守る会の会員が案内人を務め、園児から大人まで鳥峠の美しい自然に触れ合える「自然観察会」を開催した。
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		今年で2回目となる「かたくり祭り」を鳥峠にて開催し、村内のみならず、遠方からの来客もあり、泉崎の魅力を P R する事業のひとつとして展開している。また今年度新たに「山野草樹木研修会」を開催し、会員の意識向上、郷土愛を深める取り組みを行った。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		B	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分	担当課	教育課学校教育グループ
基本目標	3 ひとの流れをつくる	
施策の枠組み	(1) 移住・定住の促進	
具体的施策	⑤郷土愛の醸成	
事業名	泉崎村の特産品を活かした食育推進事業	
事業概要	最終予算額 734 千円	決算額 734 千円
	地場産の野菜（トマト・空芯菜・ブロッコリー等）やソバ、「夢味ポーク」「愛郷やき」等を活用した給食メニューの開発を推進し、地域の文化の豊かさを子どもたちに伝えることにより、郷土愛を醸成します。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	村産品を活用した給食の延べ回数					
		K P I	月 4 5 回 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	月 33 回	月 23 回			
		達成率	—	73%	51%			
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	調理時間の制約があるため、村内産を利用する際には一次処理を必要とするため、村内産で利用しているものは、加工物が多い。生ものが利用できない。
		D	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		調理時間の制約があるため、村内産を利用する際には一次処理を必要とする。そのため冷凍物を利用してしまふことが多い。米・味噌・椎茸は村内産を使用、ブロッコリーは白河産の冷凍品を使用、また、大根・キャベツ・にんじんなどの野菜について直売所から購入するなど、地産地消に取り組んでいく。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効とは言えない。
		D	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分		担当課	総務課企画財政グループ
基本目標	3 ひとの流れをつくる		
施策の枠組み	(2) 観光振興による人の流れの促進		
具体的施策	①国内外からの観光誘客		
事業名	SNS を活用した情報発信事業		
事業概要	最終予算額 600 千円		決算額 586 千円
	観光に関するホームページ作成やフェイスブック等の SNS 活用により、村の魅力等の情報発信力を強化します。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	SNS 対応ホームページへの平均アクセス数					
		K P I	100 回/日 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	164 回	1,846 回	1,941 回		
		達成率	—	164%	1846%	1941%		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	目標以上に進捗しているが、情報発信を積極的に行っている部署と情報発信を行っていない部署がある。
		A	イベント等の報告が掲載されるケースが多い。イベント等の告知にも活用していかなければいけない。
	(A) 改善	30 年度における取り組みなど	
		更新を行っていないグループに対し、内容の更新するよう要請する。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の K P I 達成に有効であった。
		A	

A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。

B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。

C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。

D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分		担当課	総務課企画財政グループ
基本目標	3 ひとの流れをつくる		
施策の枠組み	(2) 観光振興による人の流れの促進		
具体的施策	①国内外からの観光誘客		
事業名	公衆無線 LAN 整備事業		
事業概要	最終予算額 3,216 千円		決算額 2,684 千円
	2020 年までに主要な観光・防災拠点における重点整備箇所について、国が作成する整備計画に基づき、無料 Wi-Fi 環境の整備を推進する。 今年度は第一小学校、第二小学校、中学校の体育館に公衆無線 LAN のアクセスポイントを整備することにより、観光客や村民に利便性の良さをアピールする。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	1 日の平均アクセス数					
		K P I	30 回					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	5.6 回	5.1 回	12.1 回		
		達成率	—	19%	17%	40%		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	今年度予定していた第一小学校、第二小学校、中学校の体育館へ公衆無線 LAN を整備した。
		B	また、スマートフォンからの接続が容易になるアプリに対応することができた。
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		避難所（公共施設）の公衆無線 LAN 整備が終ったので、カントリービレッジへの整備を検討したい。 公衆無線 LAN が利用できる施設を P R し、利用者を増やしたい。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の K P I 達成に有効であった。
		B	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分			担当課	事業課産業グループ
基本目標	3 ひとの流れをつくる			
施策の枠組み	(2) 観光振興による人の流れの促進			
具体的施策	②観光地の再生			
事業名	観光モデルコースの策定事業			
事業概要	最終予算額 0 千円		決算額 0 千円	
	村のシンボルである鳥峠の自然を活かした遊歩道や、村内幹線道路の桜並木の維持・整備を図るとともに、こうした観光資源をつないだ回遊型の観光モデルコースを策定します。			

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	観光モデルコースの策定					
		K P I	策定済 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	未策定	未策定	未策定		
		達成率	—	0 %	0 %	0 %		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	パークゴルフ場をオープンしたことに伴い、観光 PR を兼ねたホームページの作成を実施。
		B	その他として、県南地方の観光 PR パンフレット等（しらかわぐるる・しらかわ周遊パスポート・魅力発見バスツアー）により、泉崎村の観光及びレジャー施設を掲載することにより PR 活動を行った。
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
			ホームページに最新の情報を掲載する。 また、県南地方の情報パンフレット等に泉崎村の旬の情報を掲載する。
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		B	

A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。

B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。

C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。

D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分	担当課	事業課産業グループ
基本目標	3 ひとの流れをつくる	
施策の枠組み	(3) 観光・交流の基盤となるスポーツ・文化の振興	
具体的施策	①スポーツによる地域振興	
事業名	スポーツ合宿の誘致促進事業	
事業概要	最終予算額 0 千円	決算額 0 千円
	豊富なスポーツ施設や村への首都圏等からの交通利便性を活かし、スポーツ合宿の誘致を推進する。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	スポーツ合宿の誘致数					
		K P I	1 5 0 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	1 1 9	1 2 5	1 1 3			
		達成率	7 9 %	8 3 %	7 5 %			
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	指定管理制度にて村より委託している泉崎カントリーヴィレッジにおいて体育施設とカントリーヴィレッジの利便性をアピールする営業活動を実施している。首都圏の大手旅行業者への営業、県内宿泊施設で組織する団体において教育旅行合宿キャラバン等に参加し隣県の中学校、高校、大学にスポーツ合宿誘致活動を積極的に行っている。
	改善 (A)	B	
		30 年度における取り組みなど	継続して事業を実施する。
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		B	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分	担当課	教育課生涯学習グループ
基本目標	3 ひとの流れをつくる	
施策の枠組み	(3) 観光・交流の基盤となるスポーツ・文化の振興	
具体的施策	①スポーツによる地域振興	
事業名	指導者及びスポーツ推進員の育成事業	
事業概要	最終予算額 148 千円	決算額 118 千円
	スポーツ推進委員や指導者が各スポーツ競技の指導を行いながら村の大会や駅伝大会中継所のサポートを行う。 又、県スポーツ推進委員研究大会や西白河地方実技研修会講演会に参加し知識向上を図る。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	スポーツ推進員育成数					
		K P I	15 人 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	11 人	11 人	11 人			
		達成率	73 %	73 %	73 %			
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	各スポーツ競技の指導と村の大会や駅伝中継所のサポートは概ね役割を果たした。また、県研究大会や西白河地方技術研修会へのスポーツ推進委員の参加者について前年より若干増加した。
		C	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		29 年度において、スポーツ少年団等指導者各々へスポーツ推進員についての概要説明を行い一定程度の理解を得ることができた。30 年度においては、委員委嘱を前提として積極的な呼びかけを行っていききたい。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		C	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分	担当課	中央公民館
基本目標	3 ひとの流れをつくる	
施策の枠組み	(3) 観光・交流の基盤となるスポーツ・文化の振興	
具体的施策	②地域の文化財・民俗芸能の保存・継承	
事業名	新たな活動団体の創出事業	
事業概要	最終予算額 50 千円	決算額 50 千円
	伝統文化保存会をはじめとした、地域の文化・芸術活動を支援します。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	文化活動団体数					
		K P I	8 団体 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	6 団体	6 団体	6 団体		
		達成率	—	7 5 %	7 5 %	7 5 %		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	新たな活動団体の創出は実施していない。
		D	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		新たな活動団体の創出はないが、H28 年度の「地方創生加速化交付金」により、「念佛踊り保存会」、「峠節保存会」の衣装を購入したことで、今まで以上に意欲的に活動を展開し、会員も新たに加入した。 新たな活動団体の創出は難しいと考えるので、現に活動している団体の存続に重きを置いてはどうか。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効とは言えない。
		D	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分	担当課	教育課生涯学習グループ
基本目標	3 ひとの流れをつくる	
施策の枠組み	(3) 観光・交流の基盤となるスポーツ・文化の振興	
具体的施策	②地域の文化財・民俗芸能の保存・継承	
事業名	文化財マップや説明板の設置事業	
事業概要	最終予算額 292 千円	決算額 292 千円
	文化財マップの作成や説明板を設置することにより、村内の文化財の調査や研究の充実を図ると共に、文化財の保存や活用を推進する。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	文化財マップ (ガイドブック上で地図掲載)					
		K P I	実施済 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	未実施	5 0 %	実施済		
		達成率	—	0 %	5 0 %	100%		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	文化財ガイドマップを完成させ、学校への配布活用、公共施設への設置配布を行うことができた。
		A	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		ガイドブックとガイドマップを併せて、学校での副教材としての活用や文化財見学ツアーなどの生涯学習事業に利用する。	
	委員会 意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		A	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分		担当課	教育課生涯学習グループ
基本目標	4 安心をつくる		
施策の枠組み	(1) 暮らしの安全・安心の確保		
具体的施策	①地域コミュニティの再生と活性化		
事業名	コミュニティ交通の充実事業		
事業概要	最終予算額 4,426 千円		決算額 4,257 千円
	小さな拠点推進のためのコミュニティ交通充実の観点から、ふれあい号のデマンド交通化を行う。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	ふれあい号の利用者数					
		K P I	2, 5 0 0 人 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	2,017 人	2,373 人	2,459 人		
		達成率	—	80%	95%	98%		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	上半期 (4～9 月) の利用は前年より低かったが、下半期の利用が向上し、目標値近くまで利用率をあげることができた。
		B	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		30 年度の運行経路について、利用実績や利用者要望及び 29 年度中に新たに開設された公共事業所などを考慮して見直しを行い利便性を向上する。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		B	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分		担当課	中央公民館
基本目標	4 安心をつくる		
施策の枠組み	(1) 暮らしの安全・安心の確保		
具体的施策	①地域コミュニティの再生と活性化		
事業名	世代間交流事業の推進・実施事業		
事業概要	最終予算額 50 千円	決算額	50 千円
	世代を超えた異年齢での体験活動を通して、互いに人との関わり方を学ぶとともに、協調性・尊重性・思いやりの気持ちを育む事業を推進します。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	世代間交流事業数					
		K P I	5 事業 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	3 事業	4 事業	4 事業		
		達成率	—	6 0 %	8 0 %	8 0 %		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	ボランティア連絡協議会会員らが第一小学校『泉っ子まつり』と第二小学校『交流昔の遊び集会』の講師として参加し、児童と昔ながらの遊びを一緒に楽しむことで交流を深めている。
		B	また、昨年度より幼稚園行事の『団子さし』にも参加し、古くから伝わる伝統行事を通して園児との心の触れあいを図った。
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		泉崎の魅力発見事業として、H28 年度に「鳥峠の自然を守る会」を設立し、会員と園児・小中学生が交流できる「自然観察会」を今年度も年 6 回予定している。 世代間交流を行える事業として、H30 年度も意欲的に実施したい。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		B	

A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。

B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。

C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。

D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分	担当課	事業課産業グループ
基本目標	4 安心をつくる	
施策の枠組み	(1) 暮らしの安全・安心の確保	
具体的施策	②空き家等対策の推進	
事業名	空き屋対策事業	
事業概要	最終予算額 0 千円	決算額 0 千円
	空き家物件の状況を調査・把握し、居住可能な物件の空き家バンクへの登録と、インターネットを介した情報提供により、移住希望者等とのマッチングを図ります。また、倒壊等の危険性のある家屋の所有者に対して、今後の利用予定がない場合の撤去を促します。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	空き家調査の実施					
		K P I	実施済 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	実施済	実施済	実施済		
		達成率	—	100%	100%	100%		
		目標事項	空き家バンク登録物件数					
		K P I	1 0 件 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	0 件	0 件	0 件			
		達成率	0 %	0 %	0 %			

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	平成 27 年度に空き家実態調査は実施済みとなっているが、空き家バンク等の利活用方法については現在検討中となっております。
		担当課 評 価	
		C	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	空き家対策は、空き家の持ち主及び地域住民との話し合いの場も必要とされる事から、他市町村の事例を参考にしながら対応したいと考える。
		評価等に対する意見	
	委員会意見	委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		C	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分		担当課	住民福祉課住民グループ
基本目標	4 安心をつくる		
施策の枠組み	(1) 暮らしの安全・安心の確保		
具体的施策	③地域防犯・防災力の強化		
事業名	消防団の充実事業		
事業概要	最終予算額 18,267 千円		決算額 17,116 千円
	泉崎村消防団は、現在 6 分団に分かれている。このため、幹部人数も多く全ての幹部団員に連絡を取るだけでもかなりの時間を要している。このことから、2 分団制とすることにより、指揮系統を単純化・短縮化し、幹部経験や知識の不均衡をなくす。また、現在も組織化されている機能別消防団の更なる充実を図り、就労形態の変化等による出動不可団員の補完に努めると共に、国が推進する女性消防団員及び学生消防団員の新規確保に努める。		

計画（P）↓実施（D）	目標事項・進捗状況	目標事項		消防団員数					
		K P I		2 4 1 人（H31 年度）					
		数 値	現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
			—	2 4 1 人	2 4 1 人	2 4 1 人			
			達成率	—	100%	100%	100%		
		目標事項							
		K P I							
		数 値	現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
			達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	2 分団制への意向について、幹部会においては概ね浸透が図られていると思われるが、地区における議論について不透明な部分が見受けられることから、今後十分な協議を要すると思われる。また、女性消防団員や学生消防団員の新規確保については、対象となる人員が不足していることもあり今後検討していかなければならない。
		B	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		昨年度から引き続き 2 分団制移行についての取り組みを進め、消防団員の連携や意識向上を図る。また、消防車両の購入や消防屯所改修など設備や施設の強化、充実を目標に取り組む。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
B			

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分	担当課		住民福祉課住民グループ
基本目標	4 安心をつくる		
施策の枠組み	(1) 暮らしの安全・安心の確保		
具体的施策	③地域防犯・防災力の強化		
事業名	災害時応援協定の締結事業		
事業概要	最終予算額 0 千円	決算額 0 千円	
	村では現在、災害時応援協定として、南会津郡の 4 町村及び西白河郡の 4 町村と協定を締結しているほか、「L P ガス等の供給協力に関する協定」を一般社団法人福島県 L P ガス協会白河支部と、「生活物資の確保及び供給に関する協定」を白河青果株式会社及び丸水白河魚市場株式会社との間に結んでいる。また、かねてより交流のある長野県下條村との間に災害時応援協定を締結している。今後、住民の安全・安心を確保するため、協定の締結先を模索する。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	災害時応援協定の締結数					
		K P I	4 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	3	4	5		
		達成率	—	7 5 %	100 %	100 %		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	夢みなみ農業協同組合との間で災害時における生活物資確保及び供給に関する協定を締結し、災害時における食料や生活物資の供給先を複数確保できたことにより、安定した供給を受けることが期待できる。
		A	
	(A) 改善	30 年度における取り組みなど	
		日本郵政株式会社泉崎郵便局との間で検討している平常時の高齢者の見守り、村道等破損箇所発見時の対応及び不法投棄発見時の対応について具体的な取り組みについてつめていきたい。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		A	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分	担当課		総務課企画財政グループ
基本目標	4 安心をつくる		
施策の枠組み	(1) 暮らしの安全・安心の確保		
具体的施策	④公共施設等の戦略的な維持管理		
事業名	村の情報基幹システムのクラウド化		
事業概要	最終予算額 0 円	決算額 0 円	
	しらかわ地域市町村クラウド化検討グループで基幹系システムクラウド化（共同利用）に向けた検討を行い、平成 30 年度を目標に移行する。 各市町村のシステム更新時期を合わせ、平成 35 年度に移行予定となった。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	クラウド化の実施					
		K P I	実施済 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	未実施	未実施	未実施		
		達成率	—	0 %	0 %	0 %		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	白河市が中心となり、しらかわ地域市町村クラウド化検討グループに関する打合せが、今年度は 4 月と 10 月に開催された。
		B	泉崎村では移行に参加する意向であるが、しらかわ地域市町村クラウド化検討グループで 35 年度に移行予定となった。
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
			引き続き関係市町村との協議に参加していく。
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の K P I 達成に有効であった。
		B	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分		担当課	総務課企画財政グループ
基本目標	4 安心をつくる		
施策の枠組み	(1) 暮らしの安全・安心の確保		
具体的施策	④公共施設等の戦略的な維持管理		
事業名	公共施設実態調査の実施		
事業概要	最終予算額	0 円	決算額 0 円
	既存公共施設について、必要性・住民アクセス・有効土地利用等の観点から統廃合や再配置を検討するとともに、計画的な補修・修繕を行うことにより、各施設の維持管理に努めます。		
	全ての公共施設の実態調査を行うことにより、今後、必要となる更新費用の算定を行なう。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	公共施設実態調査の実施					
		K P I	実施済 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	未実施	未実施	未実施		
		達成率	—	0 %	0 %	0 %		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	実施していません。
		C	
	(A) 改善	30 年度における取り組みなど	
		平成 31 年度までに実施できるよう準備していく。	
	委員会 意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の K P I 達成に有効であった。
		C	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分		担当課	住民福祉課福祉グループ
基本目標	4 安心をつくる		
施策の枠組み	(2) 医療と福祉の充実・連携		
具体的施策	①介護離職ゼロの推進		
事業名	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護への優遇措置制度の検討		
事業概要	最終予算額	0 千円	決算額 0 千円
	家族介護者の急な仕事の都合等に対しても柔軟に対応可能な、地域密着型特別養護老人ホームを整備する事業所に対して、多様な優遇措置を検討し、介護を理由とした離職ゼロを目指します。また、企業・事業者に向けて、介護を要する家族等を持つ就業者のワーク・ライフ・バランス啓発の講習会を実施します。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	地域密着型特別養護老人ホーム数					
		K P I	1 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	0	0	1		
		達成率	—	0 %	0 %	100 %		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	地域密着型特養は平成 29 年 12 月に開所。入所者は満床で離職ゼロを目指すため施設に入所させる対応は施設では行っていないが、空きベッドを利用した短期入所（ショートステイ）で対応できている。
		D	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		優遇措置、施設との協議連携など今後検討したい。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効とは言えない。
		D	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分	担当課	住民福祉課福祉グループ
基本目標	4 安心をつくる	
施策の枠組み	(2) 医療と福祉の充実・連携	
具体的施策	②地域医療の充実	
事業名	救急医療体制の維持及び充実	
事業概要	最終予算額 0 千円	決算額 0 千円
	医療の質の向上とともに、広域的医療機関との役割分担や連携強化に向けた支援を行い、子どもから高齢者までを対象とした、幅広い医療の充実に努めます。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	広域的医療機関との連携事業数					
		K P I	1 事業 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	0 事業	0 事業	0 事業		
		達成率	—	0 %	0 %	0 %		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	白河地方自治体が広域で連携し、救急医療体制の維持・充実を図るため医師の確保支援に係る支援負担金や周産期医療体制等確保のための負担金、准看護学院へ財政援助を行っています。
		E	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		今後も継続して広域市町村が連携し、体制の維持充実を図っていきます。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効とは言えない。
		E	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分		担当課	中央公民館
基本目標	4 安心をつくる		
施策の枠組み	(2) 医療と福祉の充実・連携		
具体的施策	③地域における福祉の支え合い活動の促進		
事業名	泉崎村ボランティア連絡協議会の機能強化事業		
事業概要	最終予算額 50 千円	決算額	50 千円
	高齢化が進む中、寝たきりや一人暮らしの方の数が年々増加傾向にある。 そこで、ボランティア団体及び個人ボランティアの相互連携を図りながら見守り・訪問活動・地域の人等との交流の場づくりなどを提供したい。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	ボランティア団体数					
		K P I	10 団体 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	8 団体	8 団体	9 団体			
		達成率	80%	80%	90%			
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	現在では各小学校への総合学習の参加や各イベントへの協力、清掃等が主な活動となっているので、『地域における福祉の支え合い活動』について改めて検討し、事業を展開していきたい。
		B	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		総会時に団体会員である泉崎南東北リハビリテーション・センターの介護福祉士を講師に近年、社会問題となっている認知症についての研修会を行った。 認知症についての理解を深め、地域ボランティアとしての役割と必要性を学ぶことができ、新たな福祉活動としての事業展開につなげる第一歩となった。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		B	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分		担当課	学校教育グループ
基本目標	4 安心をつくる		
施策の枠組み	(2) 医療と福祉の充実・連携		
具体的施策	③地域における福祉の支え合い活動の促進		
事業名	ボランティアリーダーの養成・研修事業の実施		
事業概要	最終予算額 0 千円	決算額	0 千円
	ボランティア活動への住民の参加意欲醸成のため、広報・啓発や情報提供に努めます。 また、ボランティア活動の推進体制を整備するとともに、人材の育成等、全体的な取り組みを強化します。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	ボランティアリーダー育成数					
		K P I	2 人 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	—	0 人	0 人	0 人		
		達成率	—	0 %	0 %	0 %		
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評 価	(1)子ども達の登校時の見守りとして、『地域スクラム応援隊』を結成し、2 学期より活動を開始した。会員は発足当時は、一小学区 14 名、二小学区 14 名計 28 名だったが、現在は一小二小学区計 34 名が登録し、朝の見守り活動を実施している。
		B	(2)次期学習指導要領において「地域とともにある学校」を目指すとの方針を受け、『学校支援ボランティア』を募集した。19 名が登録し、野菜づくり(生活科)や読み聞かせ等で教育活動に協力をしていただいている。
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		(1)平成 29 年度に立ち上げた地域スクラム応援隊や学校支援ボランティアとの連携を密にし、さらに学校との協力体制を強化していく。 (2)泉崎村ボランティア連絡協議会、地域スクラム応援隊、学校支援ボランティアなど、これらの団体が横の連携を図る仕組みやボランティアリーダーの養成・研修事業の実施を視野に入れた事業を展開していく。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効とは言えない。
		B	

A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 29 年度分	担当課	総務課企画財政グループ
基本目標	5 まちをつなぐ	
施策の枠組み	(1) 地域間連携の推進	
具体的施策	① しらかわ地域定住自立圏構想の推進	
事業名	しらかわ地域定住自立圏形成協定	
事業概要	最終予算額 66,391 千円	決算額 63,682 千円
	白河市と生活圏や経済圏をともにする、泉崎村を含めた 9 市町村長参加による「しらかわ地域定住自立圏推進協議会」のしらかわ地域定住自立圏共生ビジョンの推進に努めます。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	しらかわ地域定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取り組みの推進					
		K P I	4 1 事業 (H31 年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値	1 6 事業	1 2 事業	1 3 事業			
		達成率	3 9 %	2 9 %	3 2 %			
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 29 年度	評価 (C)	29 年度評価	
		担当課 評価	しらかわ地域定住自立圏共生ビジョンに掲載している事業で、実施していない事業がある。
		C	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		しらかわ地域定住自立圏共生ビジョンに掲載している事業は、特別交付税の措置があるため、各担当課に事業を実施するよう要請する。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評価	総合戦略の K P I 達成に有効であった。
		C	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。